

研究の概要

1 はじめに

総合教育センターでは、調査研究事業の一環として、生徒一人一人の基礎・基本の確実な定着を図るための授業改善を目指し、研究協議や授業実践を通して学習指導法や評価等についての研究に取り組んでいる。本年度は、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、評価の基本的な考え方に基づき、指導と評価の一体化を目指し、次の三つのテーマを設定して研究した。

(1) 単元の指導計画・評価計画

評価の4観点(国語科は5観点)を踏まえて、1単位時間及び1単位の中での指導項目の重点化を図るとともに、生徒の学習状況を適切に評価できるよう、診断的評価や形成的評価を指導計画の中に取り入れる。

(2) 生徒の自己評価

自己評価あるいは相互評価を取り入れることにより、生徒に学習の振り返りの機会を与え、自ら学ぶ力の育成が図られるよう工夫する。

(3) 評価問題(ペーパーテスト)の工夫・改善

生徒の学習の到達度を適切に評価するために、特定の観点に偏らない問題を工夫する。

2 評価の考え方

評価の基本的な考え方については、平成12年12月の教育課程審議会答申の趣旨を十分に理解しておく必要がある。答申には次のように述べられている。

- ア 学力については、知識の量のみでとらえるのではなく、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることはもとより、それにとどまることなく、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」がはぐくまれているかどうかによってとらえる必要がある。
- イ これからの評価においては、観点別学習状況の評価を基本とした現行の評価方法を発展させ、目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)を一層重視するとともに、児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを評価するため、個人内評価を工夫することが重要である。
- ウ 学校の教育活動は、計画、実践、評価という一連の活動が繰り返されながら展開されるものであり、指導と評価の一体化を図るとともに、学習指導の過程における評価の工夫を進めることが重要である。また、評価が児童生徒の学習の改善に生かされるよう、日常的に児童生徒や保護者に学習の評価を十分に説明していくことが大切である。
- エ 評価に当たっては、教育活動の特質や評価の目的等に応じ、評価の方法、場面、時期などを工夫し、児童生徒の成長の状況を総合的に評価することが重要である。
- オ 評価活動を充実するためには、各学校において、評価の方針、方法、体制などについて、校長のリーダーシップの下、教員間の共通理解を図り、一体となって取り組むことが不可欠である。また、各教員が、評価についての専門的力量を高めるため、自己研鑽に努めたり、校内研究・研修を実施することなどが重要である。

*教育課程審議会答申「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」より

3 指導と評価の一体化の考え方

指導と評価の一体化は、計画、実践、評価という一連の活動を繰り返しながら、形成的な評価を重ねていくことによって達成できると考えられる。学習指導においては、あらかじめ生徒の反応を予想したり、適切な指導及び評価の場面を設定したりすることが大切であり、指導計画に評価に関する項目を明確に位置づける必要がある。授業の計画や概要を生徒に把握させて、主体的に学習に取り組ませる必要もある。

教師にとって重要なことは、評価の結果によって後の指導を改善し、その指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させて生徒の学力向上に資することである。

生徒にとっての評価は、自己の学習状況を振り返ることで自分を見つめ直すきっかけとなり、主体的に学ぶ姿勢が育まれるという意義がある。

【指導と評価の手順の例】

Step 1

指導計画（評価計画）の作成

自校の教育目標や生徒の学習状況の実態を踏まえ、各教科・科目の目標と内容を基に指導計画（評価計画）を作成する。

具体的な評価規準や評価場面を設定する。

学習状況や学習の到達度を判断する評価方法や判断基準を設定する。



Step 2

授業実践（実際の指導・形成的な評価）

指導計画（評価計画）を実践する。

生徒の応答や反応に対し、必要に応じて補足説明などを行い、指導事項の徹底を図る。

テストや提出物などで、生徒の学習の到達度を適切に評価し、必要に応じて補充指導などを行う。



Step 3

指導計画（評価計画）の改善

授業実践の結果を踏まえて、指導計画（評価計画）を改善する。

総括的評価

テストや提出物など、評価に取り入れる材料を明確にした上で、評価の総括を行い、生徒の学習の到達度を測る目安にする。

4 平成15年度の研究組織

< 研究委員 >

委員長	総合教育センター	研究調査部	部長	小澤 武雄
研究委員	同	研究調査部	指導主事	吉澤 正光(国 語)
	同	研 修 部	副主幹	皆川 純男(地歴・公民)
	同	研究調査部	指導主事	杉山 正明(地歴・公民)
	同	研 修 部	指導主事	植木 淳(数 学)
	同	研究調査部	指導主事	吉川 孝昭(数 学)
	同	研 修 部	指導主事	日向野 勝(理 科)
	同	研究調査部	指導主事	小川 浩昭(理 科)
	同	研 修 部	指導主事	佐野 宏夫(外 国 語)

< 調査研究協力員 >

国 語 科	藤岡高校 黒羽高校 喜連川高校	教諭 教諭 教諭	霧 林 宏 道 小 林 紀 子 上 田 晃
地歴・公民科	足尾高校 田沼高校 馬頭高校	教諭 教諭 教諭	齋 藤 信 行 大 嶋 俊 彦 安 達 崇 志
数 学 科	宇都宮南高校 粟野高校 日光高校	教諭 教諭 教諭	池 邊 直 哉 大 橋 房 枝 酒 徳 敦 子
理 科	宇都宮清陵高校 小山南高校 益子高校	教諭 教諭 教諭	河 原 真 則 針 谷 英 子 坪 山 洋 之
外 国 語 科 (英 語)	足利南高校 足利西高校 芳賀高校 那須高校	教諭 教諭 教諭 教諭	安 間 ふみ子 星 野 一 美 仲 島 真 一 金 谷 英 明

5 研究過程

6月 9日	総合教育センター (第1回調査研究委員会)	調査研究の主旨説明、研究方法の検討、 指導事例の形式の検討、役割分担
7月 2日	総合教育センター (第2回調査研究委員会)	指導事例の検討及び作成
9月 ~10月	各県立学校 (第3回調査研究委員会)	研究授業、授業研究、 指導事例の検討及び作成
	国語 9月 26日(金) 喜連川高校 地歴・公民 9月 19日(金) 足尾高校 数学 9月 26日(金) 宇都宮南高校 理科 10月 6日(月) 益子高校 英語 10月 8日(水) 足利南高校	
11月18日	総合教育センター (第4回調査研究委員会)	指導事例の原稿の検討、まとめ